

縁側の原風景 —平成の陽(ひかり)を浴びながら—

市民学芸員 古澤 立巳

早春の頃となり、草木の匂いにも春の香りが少しずつ感じられるようになりました。来年に開園 20周年を迎える難波田城公園にも、平成最後の春が訪れようとしています。園内にある古民家の一つ、旧金子家住宅の縁側に腰掛けてみると、季節の移ろいととも、自分の少年の頃の情景がよみがえってきます。私が小学生の時まで住んでいた家にも旧金子家住宅のような縁側がありました。縁側で針仕事をしたり、鰹節かつおぶしを削る祖母の姿が思い浮かびます。

古くから日本家屋独特の空間として造られてきた縁側には、夏の暑さや冬の寒さを和らげる機能があると言われてています。

しかし、私にとって縁側は、背中に大きな籠かごを背負って、月に何回か訪れる行商の方との楽しい出会いの場でもありました。私の家族からは、「かつぎ屋のおばさん」と呼ばれ、縁側に腰を下ろして担いできた籠を置くと、その中には、新鮮な海や山の幸が詰まっていました。年末になると籠の中から何枚かの押し餅も出てきました。様々な品物をひとつひとつ丁寧に見せながらの楽しいお話にも魅せられました。コミュニケーション空間としての縁側には、何か人ほがを朗らかにさせる魔力があるような気がします。



今、旧金子家住宅の縁側がタイムマシーンとなって、少年時代に私を誘ってくれます。『火宅の人』の著者・檀一雄だんかずおさんの娘で女優の檀ふみさんの書いた『父の縁側、私の書齋』という本に「心の縁側」という一節があります。俳優・森繁久彌もりしげひさやさんが「戦後、日本人が失ったものは、縁側である」という風に言っていたことを紹介し、「縁側には、玄関ほどのよそよそしさ、ものものしさはない。勝手口のような、せわしなさもない。外に向かってゆったり、温かく開いている」と続けます。行間から、失われていく縁側の文化や、季節と心を通わせる場所である縁側への思いが伝わってきました。余談ですが、私は、檀ふみさんの二歳上の兄とは中学の同級生で、当時、東京の石神井公園しやくじいにあったお宅に、遊びに行った思い出があります。その時に見せてもらった、有名作家のお父さんの書齋や縁側のことを思い出しました。

難波田城公園にある旧金子家住宅の縁側は、土曜日や日曜日に行われる「ちょこっと体験」の舞台になる時もあります。前庭で昔遊びをしている我が子をほほえましく見つめる、お父さんやお母さんたちの姿も見られます。時には、お月見のお供え物など季節の風物詩も見られます。私は、昭和から平成、そして次の時代になっても、縁側の文化が残り続けてもらいたいと願っています。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

石造物シリーズ③「難波田直治郎墓」

難波田城公園内の曲輪1に「難波田直治郎墓」と刻まれた石碑があります。実は、この難波田直治郎は、戦国時代に活躍した難波田氏の子孫ではありません。

河越合戦の後、難波田氏はこの地を失っています。その後、難波田城は廃城になりました。廃城後、この地には修験道の十玉院ができません。直治郎は十玉院の院主を務めた上田氏の出です。直治郎は十玉院の院主であった弁匡の子として文政元年(1818)に、生まれました。その後徳川御三卿の一つの一橋家に仕え、その時に出身地から難波田の姓を名乗るようになりました。

ところが、嘉永七年(1854)、兄の海弁が亡くなり、その息子の岱弁(直治郎の甥)が幼少だったために、直治郎が十玉院に戻って後見人になりました。直治郎は学問・書道に秀でていて、この地で寺子屋の先生を十三年勤めました。その後、甥の岱弁が成長したので、東京に戻り、九年ほど暮らしました。そして明治十二年(1879)六十一歳で病气により亡くなりました。

その死後、明治二十年(1887)、門人(教え子)がその徳を偲ぶ「難波田直治郎墓」と刻まれた碑(筆子塚)を建立しました。石碑の裏には門人六三名の名が刻まれています。(小林 茂雄)



園内曲輪1に設置されている筆子塚「難波田直治郎墓」とその拓本。

おもしろ・なつかし体験⑥1

とんとん相撲

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

難波田城公園の「ちょこっと体験」イベントのなかで年6回と日程が固定されている、人気イベントがあります。大相撲の各場所の千秋楽に合わせて開催している「とんとん相撲」です。

今年の初場所は1月27日(日)に開催されました。当日は風の強い一日でしたが30人もの親子のみなさんが参加しました。お父さんお母さんも童心に返って、思い思いに色を付けたりしながら子供たちといっしょになってオリジナルの力士を作りあげていきます。仕上げは力士の四股名をのぼりに記入して準備完了です。対戦相手は親子や兄弟など様々。

「ひが〜し〜〇の〜やま〜」「に〜し〜〇の〜かわ〜」

いざ勝負!!

みなさん楽しいながらも白熱した対決となりました。

次回は三月場所の千秋楽3月24日(日)です。みなさんも楽しいひと時を過ごしませんか。

(酒井 正俊)



人の創ったもの★人の使ったもの 平成史を振り返る

3 月 9 日から 6 月 9 日まで開催の企画展「平成史 in 富士見」の展示資料について解説します。

二次資料で語る

歴史についての展示は、一般には、古文書、出土品、民具などのモノ資料（一次資料）が主となります。今回の展示でも、平成時代に流行したモノを並べる手法も考えましたが、「富士見市」という地域性を示すことは困難です。

今回の展示では、市内でおこった出来事の「年表」、イベントや新施設などの「写真」、そして、平成初期と現在を比較した「統計」を 3 本の柱としました。これらはいずれも、二次的な資料とされるものです。前二者は、具体的な事件・事物をとおして、記憶を喚起することができます。一方、統計によれば、目に付きにくいゆるやかな変化も、30 年間の累積の結果として知ることができます。

統計は近代社会の基礎

近代国家は、領土・国民の状況を把握し、政策判断の材料とするため、多くの統計表を作成してきました。明治以降の日本も、その初期に戸籍の確立や物産調査等を行い、国勢調査(1902年に法制化し、1920年に第1回実施)を代表とする種々の調査を継続して実施してきました。

近年は、そのデータは国民共有の財産であるという認識に基づき、ビジネスや社会活動にも利用できるよう、インターネット上での公開が進んでいます。

このコーナーでは、地元に関する資料を紹介いたします。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

統計ふじみ

富士見市は昭和 54 年度(1979 年度)から毎年度末(3 月)に『統計ふじみ』を刊行してきました。掲載されるデータは、市が保有する情報に基づくものと、国や県の統計から転載したのがあります。掲載される表は基本的に増える方向ですが、時代の変化で、載らなくなる表もあります。例えば畜産に関する表です。

年	乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏	
	軒	頭	軒	頭	軒	頭	軒	羽
昭和40	17	75	12	12	149	1,238	639	15,120
昭和50	8	133	4	19	37	1,706	105	9,243
昭和60	3	118	1	1	22	681	23	413
平成 2	3	135	-	-	8	617	5	300
平成 7	3	133	-	-	1	57	1	100
平成12	3	131	1	+	-	-	1	+
平成17	3	134	1	+	-	-	1	+
平成22	2	+	1	+	-	-	1	+
平成27	1	+	1	+	-	-	1	+

元データ：農林水産省「農林業センサス」

販売用の家畜飼養数の変遷

ここに示した表は、5 年に一度、国が実施する「農(林)業センサス」に基づくものです(昭和は 10 年間隔で表示)。平成の初期まで 600 頭を越える豚が市内で飼われていたことに驚きます。しかし近年は牛・鶏を各 1 軒で生産するのみになり『統計ふじみ』には掲載されなくなりました。

この他どの表からも、扱い方次第で地域の変化を知る手がかりが得られます。皆さんも統計を歴史資料として「読んで」みませんか？ (早坂廣人)



平成期の統計ふじみ(7年度版から A4 サイズ)



南畑地区で行なわれていた養豚(竹内さよ子氏提供)

＊ ＊春のイベント予定＊ ＊

●春季企画展「平成史 in 富士見」

富士見市の平成を統計、写真などでたどります。

会期／3 月 9 日(土)～6 月 9 日(日)

会場／特別展示室

関連イベント 講演「私の平成史～難波田城・キラリ☆ふじみ・春の一大事他～」

講師／市川信男(富士見市自治振興部長)

とき／3 月 16 日(土)午後 1 時 30 分～3 時

会場／講座室 定員／40 人(申込順) 参加無料

●ちよこつと体験「昔の着物を着てみよう」

野良着や羽織などを着て、ちよこつと昔の気分を味わってみませんか。子ども用も大人用もあります。

とき／3 月 30 日(土)・31 日(日)

午後 1 時～3 時※2 時 30 分受付終了

場所／講座室

申込み／直接ご来場ください

※順番待ちをしていただく場合もあります。

協力／和道文化着協協会

●ちよこつと体験

「なつかしの自転車紙芝居」

とき／5 月 4 日(祝)

①午前 11 時～②午後 1 時～③午後 2 時～

場所／旧金子家住宅 協力／わんだ一民話らんど

●ちよこつと体験「ごえもん風呂」

古民家にあるごえもん風呂(菖蒲湯)に入る体験です。

とき／5 月 5 日(祝) 午後 1 時～3 時

場所／旧大澤家住宅

※水着とタオルをお持ち下さい。

●ちよこつと体験「よろいを着てみよう」

とき／5 月 11 日(土)

①午前 10 時～正午 ②午後 1 時～3 時

定員／午前・午後各 20 人(無料、先着順)

対象／幼児(5 歳以上)～大人

場所／旧金子家住宅

協力／川越藩火縄銃鉄砲隊保存会

●第 32 回ふるさと探訪

ふじみ野・勝瀬方面をめぐるります。

主な見学地／護国寺、榛名神社、コロボックルの碑
とき／5 月 12 日(日)9 時～

集合場所／ふじみ野駅改札

定員／30 人(申込順)

参加費／500 円(当日集金)

申込み／4 月 27 日(土)～電話で

主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

◆難波田城公園まつり

6 月 2 日(日)に開催する予定です。

※他にも様々なイベントがあります。各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。

ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催事業)

3 月 24 日(日)草もち

4 月 28 日(日)かしわもち

5 月はお休み

*午前 11 時頃から販売します。

売り切れたら終了です



・田舎まんじゅう販売

第 1、3 日曜日 10:30～

・お月見亭(予約制手打ちうどんランチ)

3 月 12 日(火)、4 月 9 日(火)

5 月 14 日(火) 11:30～13:30

〈開園時間変更のお知らせ〉

4 月から 9 月の間、公園の開門時間は午後 6 時になります。資料館と古民家は午後 5 時までです。



富士見市立難波田城資料館

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日直後の平日、年末年始 開館時間／午前 9 時～午後 5 時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前 9 時～午後 6 時(4 月～9 月) 午前 9 時～午後 5 時(10 月～3 月)



資料館公式サイト